

まちのうごき		
面積	7.67km ²	
(5月1日現在)	(4月中)	
世帯数	18,263世帯	生まれた人
人口	53,170人	亡くなった人
男	26,080人	転入した人
女	27,090人	転出した人
		40人
		31人
		369人
		329人

広報向日市

No.575
平成6年(1994年)6月1日
◎発行 向日市役所(京都府向日市寺戸町中野20)
◎編集 秘書広報課 ◎電話 075(931)1111



水遊びをする子供たち(小畑川)



サギが親しむ自然を大切に

近年、森林の減少、地球温暖化、オゾン層破壊など、地球規模での環境問題が起きています。これらの問題の背景には、人間の生活や生産活動、つまり、わたしたちのライフスタイルが大きく影響しているといえます。今こそ、一人ひとりが環境問題に関心を持ち、取り組むことが大切です。

6月は、環境月間です。市では、市民のみなさんの環境に対する認識を深めてもらうために、さまざまな催しを行います。この機会に、わたしたちのふだんの暮らしを見直すことから、環境問題について考えてみましょう。

向日市の環境は

身近な地域の問題から地球規模の問題まで、環境汚染や環境破壊に対する関心が年々高まっています。市では、大気、水質、騒音について定期的に測定を行っており、測定結果はおおむね環境基準を達成しています。

平成5年度に市に公害苦情として寄せられた相談内容をみると、従来の工場を発生源とする産業型公害が減少し、新たに私たちの暮らしが発生源となる都市・生活型公害が増加しています。特に近年の生活様式の変化は、近隣の騒音に代表されるように生活の在り方そのものに関係するものが目立ってきました。

生活が豊かになり大量にも消費する生活様式の変化に伴い、ごみの量が增大するのと同時にごみの中身が変化してきました。向日市では毎日1人あたり約840gのごみが排出されています。しかし、捨てられるごみの中には再び資源として使えるものも数多く含まれています。市では、昭和53年から資源ごみの分別収集に取り組み、資源の有効利用を図っています。

暮らしを見直す

便利で快適な生活は、一方でいろいろな問題を発生させています。地球的規模で悪化する環境についても、わたしたち一人ひとりの暮らし方が大きく関わっています。たとえば、夏や冬に冷暖房を効かせ過ぎたり、必要以上に電気やガス、水や灯油などを使用していないですか。また、再利用できるものをこみとして捨てていませんか。

市民、事業者、行政がそれぞれの立場で環境に与える影響を考慮し、できるだけ環境に負担をかけない事業の在り方、暮らし方を実践していく必要があります。

環境月間(6月)の行事

- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|-----------------------------|
| 6日(月) | 花の苗の配布
(午前9時～市役所玄関前) | 12日(日) | クリーンハイキング
(市民体育館ほか～勝山公園) |
| | 環境保全街頭啓発
(午後2時～ニチイ向日町店前) | 13日(月) | 自動車騒音24時間調査 |
| 7日(火) | 公共施設周辺清掃
(市役所・公民館・コミセンなど) | 17日(金) | 不法投棄パトロール |
| 8日(水) | 環境月間記念植樹
(向日市天文館前) | 27日(月) | 大気汚染調査 |
| 9日(木) | カラオケパトロール
街路灯パトロール
放置自転車指導 | | |
- お問い合わせ
環境対策室(内線235)

地球とはもっとなかよくなれるはず

